

「日々の理科」(第3610号) 2024,-6,25
「石垣島離島紀行(最終回)」※2ページ

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

【4日目/5月25日(つづき)】

「石垣島天文台」は石垣市の市街地北側の丘の上にあります。嬉しいことに内部や望遠鏡の見学もできるということなので、亜熱帯の森を抜ける「長大な一方通行の道」を通って、やっと着きました。



離島の天文台にして、非常に立派な建物と望遠鏡ドームです。見学科100円(!)を支払って、施設内部を見せてもらいました。



この大型の「反射望遠鏡」は九州地方最大の口径だそうです。驚いたのは「赤道儀」ではなく「経緯台」

だったことです。高度な追尾機能があるのでしょう。ドーム内部では、望遠鏡や石垣島の星空を紹介するビデオも上映されていました。全部見て勉強しました。



石垣島の星空の「目玉」は、何と言っても「南十字星(南十字座)」です。日本の「市」で南十字星の全貌がはっきりと見えるのは、ここ石垣市だけです。それでも一番水平線に近いα星は、南中時でも水平線からわずか3度しか昇りません。水平線付近に雲のない条件の良い晩でないと観望はできないのです。



石垣島では、りゅうこつ座の「カノーパス」も容易に観望できます。群馬では地平高度が最大でも1度で非常に観望が難しい恒星ですが、石垣島では南中時に15度まで昇るので、見やすいのです。次回は南十字星とカノーパスを同じ日に観測可能な、1月か2月に来たいと思いました。



帰りの飛行機の時間が近づいてきました。最後に訪ねたのは空港近くにある「カーラ岳」です。石垣島ではほとんどの山に「岳」がつきます。石垣島南部の「カーラ岳」もその一つです。標高はわずか136mですが「カーラ岳」という立派な名を持っています。新石垣空港のすぐ北側にあり、空港滑走路はこの山を避けるために、やや東寄りに斜めに建設されています。



私はこの山の名に魅せられて、わざわざ滑走路の脇の小道を歩いて見に行きました。サトウキビ畑に囲まれた。まるで奈良の前方後円墳のような端正な山容でした。「カーラ」というのは沖縄方言で「瓦」という意味だそうです。



すぐそばに滑走路の誘導露標識があって、旅客機が着陸していきました。昨日乗った与那国島からの飛行機と同じプロペラ機でした。



最後の羽田行の離陸時も、新石垣空港は雨でした。どうも私がこの空港に来るときは、必ず雨になると決まっているようです。



南に向かって離陸したので、最後に石垣市の市街地や竹富島が見えました。わずか4日の滞在期間でしたが、郷愁すら感じました。その後、夜10時過ぎに、羽田空港に戻り着きました。停めてあった自動車も無事でした。「短く長い旅行」は終わりました。今回の旅行目的は以下の4点でした。

- (1) 人生初の沖縄旅行をする
- (2) 南十字星を観る・撮る
- (3) 硫黄島由来の軽石を採取する
- (4) 両親に美しい島の写真を見せたい

これらは、すべて達成できました。しかし、旅行を終えてみると、まだ見たいところ、描いてみたい風景、観測してみたい星がたくさん残っています。私は今日(2024年6月25日)で還暦です。今回の石垣島・八重山列島の旅行は「下見」だったような気がします。またいつか「再び」「必ず」訪れたいと思っています。

【旅行データ(3泊4日)】

- ・使った乗り物；ジェット機2回、プロペラ機2回、レンタカー2社、離島航路3回、観光バス1回、遊覧船1回、水牛車2回、自家用車、徒歩
- ・訪れた島；5島
- ・費用；一人約95,000円(航空運賃、宿泊費、レンタカー、離島めぐり代金、食費、おみやげ他)
- ・傘を使った回数；1回(旅客機～石垣空港建物)
- ・総移動距離；約4,800km
- ・変な人や危険な目にあつた回数；0
- ・描いた水彩画；約20枚
- ・食あたり・水あたり・宝くじのあたり；なし
- ・旅行の満足度；125%